Central Weekly Market Report NO.989/990

セントラル短資株式会社 総合企画部

今週(4月27日から5月1日)の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、27日(月)に開催された日銀金融政策決定会合において金融緩和の強化が決定されたものの、足元の動向に特段の影響は見られなかった。一方で、特別定額給付金の交付による資金余剰への警戒感や月末・連休といった日程要因の影響により、日毎にレート動向に変化が見られる週となった。日銀当座預金残高は、大きな過不足は無く、410兆円台前後で推移した。無担保コールO/N物は、27日と28日は先週の地合いを引き継ぎ、落ち着いた展開となった。地銀・信託・証券業態のなどの調達を中心に $_$ 0.06 $_$ 40.02%の出合いが中心となった。30日は月末要因によりレートが低下し、出合いの中心は $_$ 60.085 $_$ 40.04%に切り下がった。5月1日は連休に向けて参加者の思惑が交錯し、資金余剰への警戒感からビッドを引き下げる動きも見られた一方、大手行・信託業態等から $_$ 60.05 $_$ 40.04%近辺のビッドが入るなどしたため、出合いレートは $_$ 60.05 $_$ 40.03%が中心となった。ターム物は、 $_$ 70.04%近辺のビッドでまとまった出合いが見られるなど、一部の参加者からは強い資金調達ニーズが見られた。一方で、連休を前に資金放出をしたい先からはマイナスレートでのオファーも入った事から、 $_$ 60.04% $_$ 60.02%での出合いも見られた。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月27日に日程を短縮して開催された金融政策決定会合では、金融緩和の強化が決定された。CP・社債買入オペの追加買入枠が大幅に拡大され、合計約20兆円の買入残高を上限に買入れを実施する事や、発行体毎の買入限度額の緩和などが行われた。また、新型コロナオペの拡充が行われ、対象担保範囲が民間債務全般に拡大されたり、オペの利用残高に相当する当座預金への+0.1%の付利といった措置が講じられた。その他、国債の買入れに関して、「保有残高の増加額年間約80兆円をめど」といった文言が削除された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、▲0.16~▲0.05%程度の水準で推移した。週の前半は▲0.10%台での出合いが中心だったが、5月1日には短国発行要因などから一時▲0.05%程度まで急速にレートを切り上げた。

SC個別銘柄では、5年140〜143、10年340〜358、20年170〜172、30年60〜66、40年9〜12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、大型連休が控えていることもあり、引き続きマーケットの慎重姿勢が強く、閑散なマーケットとなった。散発的な買いが入る中、3M物が▲0.155~▲0.150%、1Y物が▲0.150%で出合う展開となった。

28日に実施された短国買入オペは、前回と同額の5,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差▲0.005%と、無難な結果となった。

5月1日に実施された3M物の入札は、WI取引においてlacktriangle0.105 \sim lacktriangle0.1025%で出合う中、平均落札利回lacktriangle0.1061%、按分落札利回lacktriangle0.0995%となった。発行額が72,400億円(前回57,400億円)に増額されたことや、今後の増発傾向を鑑みると、しっかりした結果であった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、lacktriangle0.130%出合いで推移した。

● CP市場

今週のCP発行市場は、応当日が月末・月初および大型連体を跨ぐ週となった。四半期末を除き、通常は発行額が償還額を上回るケースが多いが、今月は新型コロナウイルスへの対応から早期に調達を行っていた企業が多かったため、鉄鋼・電力等から大型発行も見られたものの、償還総額9,000億円弱に対し、発行総額は5,000億円程度にとどまる償還超となった。市場残高も先週に続き23兆円台で推移したと見られる。また、27日に開催された金融政策決定会合では、CP等買入オペに際し、一発行体あたりの上限額が発行残高の50%もしくは5,000億円に大幅に緩和されることが決定された。これを受け、28日以降の発行市場では、全体的にレート目線を切り下げる動きが観測され、発行環境は改善したように見えるものの、依然としてCP運用に対して慎重姿勢をとる投資家も多いため、目線感を定めづらく、銘柄によってレートに大きな較差が生じるボラタイルな地合いで推移している。

短期金融市場関連指標

*** — IDS-1- WE DE IS							
	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)	
4/27 (月)	19,783.22	△ 0.039	107.58	△ 0.047	△ 0.133	4,107,100	
4/28 (火)	19,771.19	△ 0.050	107.28	△ 0.048	△ 0.169	4,109,300	
4/29 (水)							
4/30 (木)	20,193.69	△ 0.042	106.58	△ 0.060	△ 0.132	4,122,000	
5/1 (金)	19,619.35	△ 0.030	107.10	△ 0.044	△ 0.060	4,090,600	

来週・再来週(5月4日から5月15日)の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/4 (月)	みどりの日	3月の米製造業新規受注・出荷・在庫			
5/5 (火)	こどもの日	3月の米貿易収支 4月のISM 非製造業景況指数			
5/6 (水)	振替休日				
5/7 (木)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 金融政策決定会合議事要旨(3月16日分 8:50) 4月のマネタリーベース(日銀 8:50)	TB6M 25,000億円 5/11発行			英中銀MPC結果発表 3月の米消費者信用残高
5/8 (金)	5月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 3月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 3月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	TB3M 72,400億円 5/11発行	10Y 物価連動 2,000億円 5/11発行	エネルギー 対策借入 8,000億円 5/20借入	London祝日(May Day) 3月の米卸売売上高 4月の米雇用統計
5/11 (月)					
5/12 (火)	決定会合における主な意見(4月27分 8:50) 4月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 3月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	10Y 21,000億円 5/13発行			4月の米財政収支 4月の米消費者物価指数
5/13 (水)	4月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 3月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	交付税借入 21,000億円 5/22借入			4月の米生産者物価指数
5/14 (木)	4月のマネーストック(日銀 8:50) 3月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	30Y 7,000億円(見込み) 5/15発行			
5/15 (金)	4月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 72,400億円(見込 み) 5/18発行	国有林野借入 500億円(見込み) 5/25借入		3月の米企業在庫 4月の米小売売上高 4月の米鉱工業生産・設備稼働率 5月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金雲給予想

が一方で	اد							1	
単位:億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/4 (月)	みどりの日								
5/5 (火)	こどもの日								
5/6 (水)	振替休日								
5/7 (木)	3,600	▲ 53,700	▲ 50,100	CP買入	▲ 200		2,800	▲ 47,300	税保険料揚げ
				ETF買入		1,300			TB3M発行▲72400償還42300
				国債補完	1,700				流動性供給▲4000
5/8 (金)	2,000	5,000	7,000				0	7,000	交付税借入▲11000期日10500
5/11 (月)	2,000	▲ 43,000	▲ 41,000	全店共通	▲ 13,400		▲ 13,400	▲ 54,400	TB3M発行▲72400償還41600
									TB6M発行▲25000償還19900
									10Y物価連動発行▲4000
5/12 (火)	2,000	▲ 3,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
5/13 (水)	1,000	▲ 22,000	▲ 21,000				0	▲ 21,000	源泉所得税、社会保障の払い
									10Y発行▲21000
5/14 (木)	0	1,000	1,000	社債買入		3,000	3,000	4,000	
5/15 (金)	1,000	▲ 3,000	▲ 2,000	国債売現先(米ドル)	5,500		5,200	3,200	2Y償還10000
				被災地支援	▲ 300				30Y発行▲7000
									交付税借入▲11000期日10500
									個人向け3Y・5Y・10Y発行▲5000(見込)
									個人向け3・5 Y 償還500
週間合計	11,600	▲ 118,700	▲ 107,100	_	▲ 6,700	4,300	▲ 2,400	▲ 109,500	

^{5/7}は日銀予想、5/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み後半に向けて調達余力を残す先がある一方、特別定額給付金などイレギュラーな資金余剰の影響を受ける先もあり、参加者による資金需要の違いが鮮明に出るものと思われる。無担保コール加重平均レートは横ばいでの推移が見込まれる。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは▲0.10%を上回る水準で推移することが見込まれる。短国市場は、7日に6M物、8日・15日に3M物の入札が実施予定となっている。短国が増発される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、大型連休明けとなり、配当・賞与の払いといった要因から、例年発行需要が増加する時期に入る。決定会合を受け、発行市場の動向が注目されるほか、13日には決定会合後初となるCP等買入オペが予定されており、オファー額やレート水準等、動向が注視される。主要なイベントとしては、7日にMPC結果発表、8日に4月の米雇用統計などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるパスケがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入